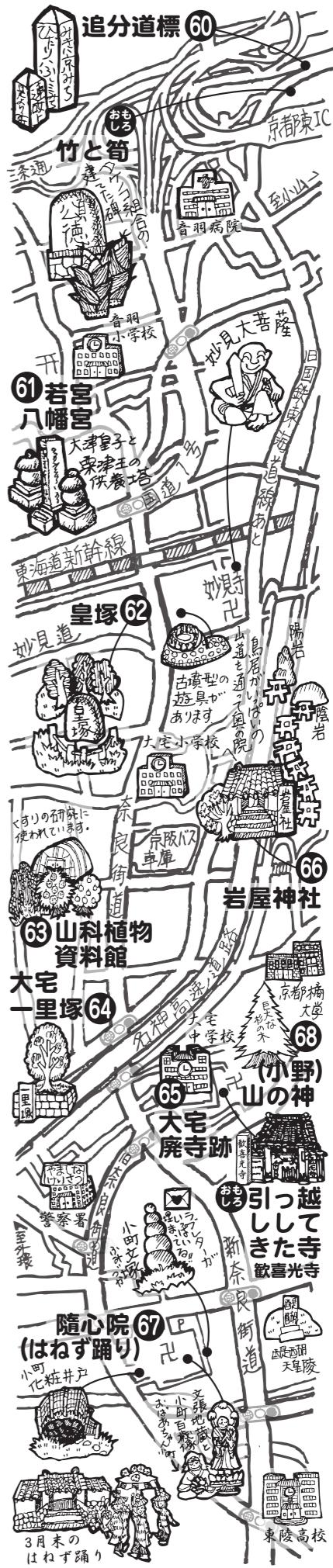


(七) 奈良街道

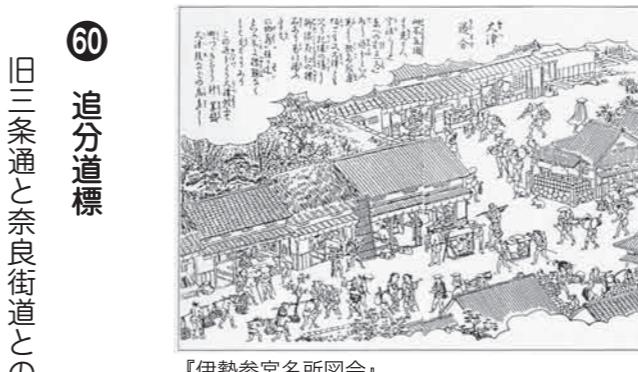
ならかいどう

現在、山科で奈良街道と呼ばれるのは、追分道標から大宅一里塚を経て小野・醍醐に到る道をいいます。古くから大和と近江を結ぶ重要な道でした。追分から小野を経て大岩街道を抜け、伏見・淀・牧方(枚方)・守口・大阪に到る東海道五十七次は、江戸時代には参勤交代の諸大名が通つた道でもあります。



おしろ 竹と筍

昭和初期まで山科は多くの竹やぶがあり、筍の産地でした。現在でも筍を出荷しており、農家の庭先などで「朝取り筍」との札を見かけます。藤尾地域には、奈良街道と旧東海道の分岐点に一九〇七年(明治四十一年)に、山科藤尾筍組合が建てた、関係者の偉業を称える頌徳碑があります。その東側には筍の入札場(集荷場)であった建物が残っています。



『伊勢参宮名所図会』

60 追分道標

旧三条通と奈良街道との分かれ道に「追分道標」が建つています。



髭茶屋敷町北西に建つ追分道標。

かつて東国と京都や奈良を結んだ重要な道筋であり、東海道と奈良街道の分かれの道標です。当時の賑わいを「伊勢参宮名所図会」(一七九七年)に見ることができます。

現在の道標には「みきハ京ミちひたりハふしみみち 昭和二十九年再建 柳緑花紅 法名未

徹」とあります。

その隣にある「蓮如上人道標」は下半分が埋まっていますが、「蓮如上人是より十町明和三丙戌」と読みます。明和三年というのは一七六六年です。

61 若宮八幡宮

音羽森廻町にある若宮八幡宮は、七世紀の後半、天智天皇が近江の志賀の都から山科へ巡幸した際に、音羽の地に八幡神を勧請したことが始まりと伝えられています。当初は仁德天皇、応神天皇、神功皇后



65 大宅一里塚

(京都市史跡(登録))



1985(昭和60)年6月、京都市の史跡に登録。

四(平成六)年五月のことです。現在、新薬開発のため、世界各地から集めた三千種以上の植物が栽培されています。この石標は大塚(王塚・皇塚)の跡を示すもので、東に「皇塚」北に「明治百年記念四月十三日建之」とあり、南に発起人が記されています。

現在、五斗の「神供米」を御所より受けていましたが、一八七〇(明治三)年に廃止されました。

『宇治郡名勝誌』(一八九八年)に「社殿ノ傍ニ、ニ基ノ古墳ノ古塔ヲ置ケリ。」と記されニ基の宝篋印塔(供養塔)があります。

アリ。一ハ大津皇子、一ハ粟津親王ノ墓ナリト云ヒ伝フ。共に五輪ノ古塔ヲ置ケリ。」と記されニ基の宝篋印塔(供養塔)があります。

国道一号を横切り新幹線の下を通り抜けると西側の塚の上に大きな松の古株が祀っています。

国道一号を横切り新幹線の下を通り抜けると西側の塚の上に大きな松の古株が祀っています。

63 山科植物資料館

日本新薬株式会社の山科植物資

料館は「ハーブの館」として知られています。一九三四年(昭和九年)に、

年一月に、ミブヨモギ(回虫駆除薬サントニンを含んでいる)の栽培試験をするために「山科試験農場」として開館しました。その後、「山科薬用植物研究所」と名



現在、岩屋神社の御旅所となっています。

62 皇塚

アリ。

王ノ墓ナリト云ヒ伝フ。共に五輪

ノ古塔ヲ置ケリ。」と記されニ基

の宝篋印塔(供養塔)があります。

アリ。

王ノ墓ナリト云ヒ伝フ。共に五輪